

解体費の補助 2種類設定

来月2日から 空き家対策に豊川市
「バンク」も開設

豊川市が増える空き家対策の一環で、新年度の4月2日から「老朽空家等解体費補助制度」を開始する。2種類の補助金を設定し、2018(平成30)年度中は合わせて20件の助成を予定。今月中にはホームページで情報を提供する空き家バンクも開設した。

(由本裕貴)

解体費の補助制度は2種類あり、「老朽空家解体費補助」は1981(昭和56)年5月31日以前に家が対象となり、上限20万円が対象となる。豊川市で解体工事の経費の

3分の2を補助する。また「倒壊危険空家解体費補助」は同要綱に基づき「倒壊危険空家」と判定された空き家が対象で、上限30万円が解体費の3分の2を助成する。対象となる物件は、市内で1年以上住居として使用されていない戸建てか長屋の住宅で、居住の用途に供する部分が延床面積の2分の1以上あり、個人が所有し、所有権以外の権利が設定されていないこと。補助を受けられる対象者は、空き家を所有し、市税などを滞納せず、暴力団員ではないことが条件となる。受付期間は4月2日から12月28日までで、老朽空家解体費補助は15件、倒壊危険空家解体費補助は5件を予定。予算の上限に達し次第終了となる。市内には2月末時点で1115件の空き家があるとされ、中には雑草の繁茂といった環境面や枯



環境や治安面で問題を抱える空き家

れ草による火災、治安悪化などを心配する声もあり、昨年4月から今年1月までに市民から77件の相談が寄せられている。空き家バンクでは宅建協会と提携し、ホームページで所在地や希望価格、写真などを公開。27日時点で3件が登録されており、今後増える見通しだ。補助制度の申請方法など、問い合わせは建築課住宅係(05333・89・2144)へ。

新年度予算や条例改正案など可決

豊橋市議会閉会

豊橋市議会3月定例会は28日、本会議を再開し、新年度予算関係や公の施設の使用料等の改定に関する条例、障害者のコミュニケーション手段の利用促進に関する条例などを原案通り可決。洪水回避などを目的にした流量確保のための中小河川の河道掘削の予算確保など求める意見書4件も可決し、閉会した。

(中村晋也)



スタートしたばかりの「空家等対策計画」

「空家等対策計画」を策定

「空家バンク」開設 再利用や解体、予防へ

豊川市

豊川市は、市内で増加傾向にある空き家への対応策を盛り込んだ「空家等対策計画」を策定した。計画期間は本年度から5年間。空き家の活用を促し、再利用が不可能な危険家屋は除却することで跡地の活用に取り組み。また、これら空き家が発生しないように予防の対策を図っていく。

同市は計画策定に向けて、市内全域で精度が高い実態調査を実施。水道の利用状況や家屋台帳などで空き家の可能性がある建物を選び出し、さらに現地に向いて外観などを調査した。1069棟

を空き家(全棟に対する空き家率0.9%)と判断し、老朽度や利活用度など細かなデータを記したカルテを個々に作成。それらをもとに、中学校区ごとの地域特性や現状、課題についてまとめた。

策定に合わせて「空家バンク」を開設し、空き家の活用を目指すこととし、2022年度末で累計登録件数80件を目指す。市によれば5日現在で13件を受け付けている。また空き家所有者

たちの要望を受け、「老朽空き家等解体費補助金制度」を開始。老朽の度合いによって、20〜30万円を上限に解体費の3分の2を補助金とする。本年度は20件が上限。5日現在、5件を受け付けた。さらに22年度までに、所有者からの相

談事案の8割を解決するという目標を掲げ、情報提供をする相談会の年に1度の開催を目指す。

市建築課の近藤慎一主幹は空き家対策について「所有者、地域住民、市、専門家などが連携していかなければ解決は難しい。地域に根ざした取り組みをしていきたい」と話した。同計画の策定は、東三河では豊橋市、新城市に次いで3例目。

(森美香)

コンセプトは

田代泌尿科が新築移転 やす

豊橋市浜道町北側の田代泌尿科(山内智之院長)が旧医院の後方約30mの場所に新築移転した。1月から仮入り口で開院。3月29日に駐車場も含め全て完成した。前を走る小松原街道(県道405号)の拡幅工事をきっかけに、駐車場の確保と耐震補強のために建て替えとなった。コンセプトは「別荘」。デザイナーと話し合いを重ね、中庭を3つ造るなど、安らぐ空間を目指した。吹き抜けの待合室には

薪(まき)ストーブを置き、子どもが遊ぶ家族待合も設置した。全館にバリアフリーを導入。効率的に診察できるよう、診察室、処置室は各3室に増やした。ほかにレントゲン室、問診室、手術室、膀胱鏡室、検査室、感染症患者を隔離する特別待合などがある。医院正面に9台収容できる新駐車場と、対面の測点バス停横に、第二駐車場もある。玄関前には、身障者用駐車場が1

良家活用「うなごうじカフェ」

高齢者と地域住民らが交流

毎週日曜日に
レクや食事満喫

豊川市牛久保町内の古民家を活用し、認知症のお年寄りや家族、地域住民らが交流する市内10カ所目の認知症カフェとして「うなごうじカフェ」が毎週日曜に開かれている。15日も10人のお年寄りが参加し、ボランティアと楽しい時間を過ごした。

(由本裕貴)

人々生々楽ありや、苦もあくるさ。水戸黄門のテーマ曲を口ずさみながら腕を伸ばし、回す体操を終えると、参加者が「お経みたいね」とつぶやいた。和風の居間は笑いに包まれる。数年前ま

で人が暮らしていた木造2階建ての空き家は、参加者にアットホームな雰囲気を与えている。空き家の隣にある小規模多機能型居宅介護ぬくぬく(牛久保町八幡口64)の管理者・杉浦弥生

さん(66)が昨年10月から主催。主に毎週日曜、午前10時から午後3時までレクリエーションや昼食を楽しむ。空き家対策委員の山口洋子さん(64)の協力もあり、東京在住の家の所有者に熱意を持つて交渉し、借りている。「日曜は家族が出掛けて家で一人になるお年寄りも多い。集いの機会があれば、本人はもちろん家族も安心できる。地域の人も、この家も喜んでくれるはず」と話す。

杉浦さんが空き家の所有者と同等に感謝するのが意識の高いボランティアだ。20人が登録し、常時7〜8人がレクの指導や昼食の調理、交流を務める。今月はこの日の談笑と脳トレ、22日は誕生日会、29日は健康体操などと企画満載。足立和男さん(72)は「モノやカネに比べて、ヒトが何より大事。私たちがやりがい、生きがいを感じている」。鈴木博子さん(72)も「お年寄りの笑顔が見たくて、毎週が楽しみです」と話す。



空き家の居間でレクを楽しむ高齢者やボランティア
＝牛久保町のうなごうじカフェで

また来たいと思える雰囲気を作ってくれる」とボランティアの姿勢に頭が下がる杉浦さん。日曜の昼下がりには祭りのようににぎやかだ。

● スマホで便利！ごみの減量・分別にご協力を

「さんあ〜る」配信開始

4 TOPICS

▼ 清掃事業課(89局2166番)

市では、ごみの減量や分別の促進のため、「さんあ〜る」の配信を開始しました。

お住まいの地域を設定すると、資源とごみの収集日カレンダーの表示、ごみ出

し日通知、天候などによるごみ収集中止の通知などの機能が利用できます。スマートフォンやタブレットをお持ちの方は、ぜひご利用ください。

「さんあ〜る」の多彩な機能



- ◆ ごみ収集日、リサイクルなどのイベント情報を確認できます
- ◆ 資源とごみの分け方・出し方の注意点、持ち込み先施設などを確認できます
- ◆ 出し方が分からないごみを五十音順で検索して分類を調べることができます
- ◆ アラーム機能で収集日をお知らせします

利用手順

- ① 右記のQRコードからアプリをダウンロード
- ② アプリを開く
- ③ 新規登録ボタンをタップ
- ④ お住まいの地域を選択



App Store



Google Play

● 良好な生活環境の確保に向けて

老朽空家等解体費補助制度等を開始

▶ 建築課(89局2144番)

5 TOPICS

🏠 空家バンクをご活用ください

市内の空き家の情報を集約した「豊川市空家バンク」を開設しています。空き家の賃借や購入などを希望される方は、印鑑をお持ちの上、直接、建築課へお越しください。空家バンクの閲覧は無料ですが、契約成立時には協力不動産業者に対する仲介手数料が発生します。



豊川市空家バンク



市では、倒壊などのおそれのある危険な空き家や、管理または利活用されていない空き家の解消を推進するため、1年以上住居として使用されていない市内の空き家を対象に、解体費用の一部を補助します。

● **倒壊危険空家解体費補助金** 倒壊または建築材の飛散のおそれがあると判定された空き家（限度額は30万円）

● **老朽空家解体費補助金** 昭和56年5月31日以前に着工され、老朽空家と判定された空き家（限度額は20万円）

（円）

対象 次の全てに該当する方①空き家を所有する個人の方②市税などの滞納がない方③暴力団員でない方

申込 申請書などに記入・押印の上、必要な資料を添えて、直接、建築課（北庁舎3階）へ。申請書などは建築課にあります（市ホームページ）からダウンロード可）

その他 補助金の交付については諸要件がありますので、事前に建築課までお問い合わせください